

# 令和元年度 学校評価報告書

園名	小野幼稚園
----	-------

## 1 教育目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>よく考え、やりぬく子ども</li> <li>みんなとなかよくあそぶ子ども</li> <li>心豊かな子ども</li> </ul>
---

## 2 今年度の重点目標

<p>自ら考え、主体的に活動する子の育成</p> <p>～自ら学ぼうとする姿、人とかかわろうとする姿を支える援助のあり方を探る～</p>
--

## 3 総合的な自己評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の援助のあり方として“信じて待つ”姿勢を大切にしながら『今、何故待っているのか』『どうして見守っているのか』『何をねらい』『どんな力を育てたいと思っているのか』言葉で捉え直ししながら、子どもたちの中に育ちつつある力を確認し合うようにしてきた。そのことにより、幼児理解が深まり、子どもの姿から援助のあり方を考える機会が増えた。</li> <li>幼児が互いに納得いくまで考え合い、話し合い、前向きに意見を交わしていく過程で、愛情、豊かな社会性が育まれている。異なる意見と対峙した時に、自分の意見をどのように伝えるのか、どのように取めていくのか、個々の様子を見取ることにより、教師がどのタイミングでどのような援助をしていけばいいのか探ることができた。</li> </ul>
---

## 4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な行事を通して、幼児の成長を実感することができた。年度初めの姿から年度末の姿になるまでに、日々の援助が大きかったのだからと思う。特に生活発表会では、子どもたち一人一人の成長が垣間見える、工夫された会であった。</li> <li>地域の拠点としての幼稚園が、子育て支援の充実を図っていることは素晴らしい。地域としても、どのようなことができるのか一緒に考えていけたらと思っている。地域の方からも、幼稚園小学校へと足を運ぶ機会を増やし、働きかけていくことができればと思う。</li> <li>近隣の幼稚園や小学校、中学校との連携交流を進めている意義、幼児児童生徒の育ちが見え、嬉しく思う。今後も教師間の連携を進めながら、互恵性のある交流をしてほしい。</li> </ul>
--

## 5 評価結果

分野・領域	自己評価			学校関係者評価
	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・4・5歳児混合保育の中で、幼児が自ら考え、手段を選び、目的をもって遊び込むための援助や環境構成の工夫ができているか。 ・一人一人の育ちや課題を職員が共通理解し、連携しあって進める保育の工夫ができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが心を動かし、目的をもって挑戦する姿が、様々な場面で見られた。達成感や満足感を味わい、時には失敗したり悩んだりしながらも、諦めることなく粘り強く取り組んでいこうとする姿を見ることができた。</li> <li>自分の思いを自分なりの方法で伝える力を育むべく、幼児同士の話し合いの場を大切にしてきた。うまく伝わらないでもどかしく思う経験も大切と考え、そこで学び取ろうとしていることを見守り、支えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の活動の中で、一人一人の頑張りをタイミングよく認め、自信をもって取り組めるようにする。諦めずに粘り強く取り組んでいけるよう、自信を高め意欲を向上させていきたい。</li> <li>幼児が考え、感じていることを自分の言葉で伝えることができるよう十分な時間を確保する。たとえうまくいかなくても、思いを伝えようとすることの大切さ、聴き取ろうとする姿勢の大切さを感じられるよう、時に言葉を補足しながら支えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の頑張りが、日常生活の様々な場面で生かされていくよう、かげながら支えていってほしい。</li> <li>現代社会の課題、農村地域の課題を抱える中で、子どもたちにも自分の思いを相手に伝える力、発信していく力をつけていってほしいと願う。少しずついいので、伝えようとする意欲とその力を育ててほしい。</li> </ul>
	健やかな体や心を育む取り組みの工夫 ・芝生園庭や園環境を活かし、様々な直接経験をできる工夫ができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>芝生園庭や遊戯室等、体を十分に動かせるスペースがあることを生かし、体全体を使った活動、遊びに取り組んできた。</li> <li>体の様々な部位を動かす、押す、引く、投げる、跳ぶ…などの動きを、遊びながら体験できるよう心掛けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然豊富な園庭や遊戯室などのスペースを存分に使って、運動の楽しさや体を動かす面白さを実感できる活動を工夫していく。</li> <li>活動に幅を持たせ、体の様々な部位を使っていろいろな動きを体験できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した取り組みこそ、力になっていくと感じる。出来なかったことができるようになった喜びを感じながら心と体を鍛え、育てていってほしいと願う。</li> </ul>
子育て支援	親と子の育ちの場としての役割や機能の充実 ・地域に住む子ども同士、親子、親同士が交流できる場の設定、隣接する校区や市内の親子が交流できる行事等を計画的に実施することができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放、未就園児と遊ぶようでは、地域内の幼児数減少により、地域からの参加者の増加は見られない。地域外からの参加者僅かながらに見られ、市内保護者の子育てへの関心の高さが窺える。</li> <li>子育てに関する相談事についても聴き取り、一緒に考えるようにしてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の広報誌、子育て支援チラシの全戸配布など情報発信をしながら、本園の特色を生かした子育て支援を実施していく。</li> <li>今後は“いっしょにあそぼう”と並行して、3歳児などにも多く呼びかけ、子育て支援の拡充を図っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域外からでも小野に来てくださる方がいることは嬉しい。子育てに悩み、一人で抱え込むことなく、みんなで地域の子育て世代の支援をしていければ…と思う。何ができるのか、地域も一緒になって考えていきたい。</li> </ul>
	子育て支援型預かり保育の充実 ・保育内容を工夫し、保育の充実を図ることができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で連携を図り、安心して預かり保育が利用できるよう、活動内容やあそびの様子を家庭に発信しながら保育内容の充実を図ってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度、園児数の減少から、預かり保育の利用数が減少することも考えられる。少人数の中で、どのような保育内容の預かりが望ましいのか1年かけて検証していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育を利用することで、親は安心して過ごされている。子どもも慣れ親しんだ場所で慣れた先生と穏やかな雰囲気のもと、安心して過ごすことができていると。</li> </ul>
学校園所連携	学校園所連携の推進 ・中学校区の幼・小・中の交流・連携の充実を図ることができているか。 ・保幼・小接続カリキュラムを軸に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼稚園と小学校が共有し、幼少の円滑な接続をめざして交流、連携を推進することができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼小交流活動は、互いの発達や学びを考えながらの交流活動になるよう工夫してきた。情報交換をしたり、授業や保育を見合ったりして学びや育ちの連続を意識することができた。</li> <li>4園交流や近隣園との交流、幼小交流の中で、小中学生や小中の教師とふれあうことができ、幼児理解を求めながら交流をすすめることができた。また、児童理解にもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“保育の中で何を大切にしているのか”が揺らがないよう、常に幼小中職員で話し合い、子どもたちの思いを伝えあう経験を大切にしていきたい。</li> <li>積極的、主体的に交流していけるよう、幼小中職員間で幼児児童生徒の姿を出し合いながら、交流活動を支えていく。事前の話し合いだけでなく、事後の検証にも時間をかけていく必要を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も職員間の連携を密にとりながら、子どもたちのために、互恵性のある温かい交流活動を続けていってほしい。</li> <li>小中学生との結びつきも強くなってきているのは素晴らしい。これも小規模園、小規模中学校ならではの強みと思う。その信頼関係を今後も深めていってほしい。</li> </ul>
保護者・地域住民との連携	園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進 ・保護者、地域住民に幼稚園教育への理解と関心を図り、連携や交流を推進することができているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>園だよりや直接的な対話を通し、4・5歳児混合保育の中での幼児の様子について伝えるよう心掛けた。</li> <li>地域の方々の協力により、野菜の栽培や、昔からの生活の知恵など教わることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育への理解を深めることができた。今後も地域の方々との直接的な対話を増やすよう努めていきたい。</li> <li>地域の方々の知恵をお借りしながら、幼児期に体験させていきたいことを実現していけるよう計画していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と幼稚園の結びつきの強さを生かして、子どもたちに様々なことを体験させていってほしい。</li> <li>小規模園だからこそできること、小規模園にしかできないことを大切にしながら、この幼児期に貴重な体験ができるようにしていってほしい。</li> </ul>